

## ベーシック・インカム入門 無条件給付の基本所得を考える

### ❖要約

本書のテーマは、ベーシック・インカムという考え方を概観することを通じて、労働、ジェンダー、グローバリゼーション、所有（何が自分の持ち分なのか）といった問題について考えていくものである。

その背景には、1970 年前後に世界のあちこちで起こった「家事労働に賃金を！」をスローガンに家事や育児、介護が主に女性によって担われ、そのことが女性の地位を不安定にしていること変えようとするといった女性たちのフェミニズム運動や近年のとりわけヨーロッパで、グローバリゼーションの中で進展する新しい経済状況や労働形態との関係で、旧来の福祉国家において企業に課されている社会保険料の使用者負担などが重荷となってきたことや、そもそも旧来の雇用慣行が現実の経済の動きにそぐわなくなってきたことに対する不安定就労者や失業者たちの運動などが紹介され、なぜ既存の福祉国家の仕組みではなくベーシック・インカムなのかが語られています。

### ❖ベーシック・インカムの概要

以下では、アイルランド政府が 2002 年に出した「ベーシック・インカム白書」での記述からより詳しい定義を紹介します。

#### 【定義について】

1. 個人に対して、どのような状況におかれているかに関わりなく無条件で給付される
2. ベーシック・インカム給付は課税されず、それ以外の所得は全て課税される

給付水準は、尊厳をもって生きること、生活上の真の選択を行使することを保障するものであることが望ましい。その水準は貧困線と同じかそれ以上として表すことができるかもしれないし、「適切な」生活保護基準と同等、あるいは平均賃金の何割、といった表現となるかもしれない。

### 【鍵となる特徴】

1. 現物（サービスやクーポン）ではなく**金銭**で給付される。それゆえ、いつどのように使うかに制約はない
2. 人生のある時点で一括で給付されるのではなく、毎月ないし毎週といった**定期的な支払い**の形をとる
3. 公的に管理される資源のなかから、**国家または他の政治的共同体（地方自治体など）**によって支払われる
4. 世帯や世帯主にだけでなく、**個々人に支払われる**
5. **資力調査なし**に支払われる。それゆえ一連の行政管理やそれに掛かる費用、現存する労働へのインセンティブを阻害する要因がなくなる
6. **稼働能力調査なし**に支払われる。それゆえ雇用の柔軟性や個人の選択を最大化し、また社会的に有益でありながら低賃金の仕事に人々がつくインセンティブを高める（例えば現行の日本の生活保護では、個々人ではなく世帯単位で給付される。その給付を受けるためには、所得や資産などを調べる資力調査を受けなくてはならないし、稼働能力の有無も問題となる）

### 【挙げられる魅力】

- ・ 現行制度ほど複雑ではなく単純性が高い。行政にとっても利用者にとっても分かりやすい。資力調査や社会保険記録の管理といった、現行の行政手続の多くは要らなくなる。
- ・ 現存の税制や社会保障システムから生じる「**貧困の罨**」や「**失業の罨**」が除去される。
- ・ 自動的に支払われるので、給付から漏れるという問題や支給に当たって恥辱感（スティグマ）を感じるという問題がなくなる。ベーシック・インカム給付のために必要な増税は、ベーシック・インカムという形で市民に直接戻される。
- ・ 家庭内で働いているが個人としての所得がない人々のような、支払い労働に従事していなし人を含むすべての人に、独立した所得を与える。
- ・ （生活保護のような）選別主義的なアプローチは相対的貧困を除去するのに失敗してきた。児童手当やベーシック・インカムのような普遍主義的なアプローチの方が効果的かもしれない。

以下の諸点でより公正で結束力のある社会を作り出す

- ・ 仕事や雇用と親和的である
- ・ 衡平性を促進し、少なくとも貧困を避けるために必要な水準の所得を確保する
- ・ 税負担をより衡平にする
- ・ 社会保障と税の体系を個人単位に変えるための1つの公正な方法を提供する
- ・ 男女を平等に扱う
- ・ 透明性がある
- ・ 労働市場において効率的である
- ・ 家事や子育てなどの、市場経済がしばしば無視する社会経済における仕事に報いる
- ・ さらなる教育や職業訓練を促進する
- ・ 技術発展や日典型的な働き方などを含む、グローバル経済における変化に対応する
- ・ ベーシック・インカム導入に付随する様々な経済的社会的改良から良い能動的効果が生まれる

ここで挙げられている特徴や利点は、現行の社会保障制度の特徴との対比であり、その欠点の裏返しでもある。

社会保障の仕組みは、社会がどのような労働を尊重し、またどのような労働を尊重し、またどのような市民間の結びつきを尊重するか、またどこまでを政府の責任とみなすか、などを前提に成立している。

このような社会保障の仕組みとそれを支えている価値観とを合わせて、「福祉国家」と呼ぶことができる。先進国と呼ばれる国々は、国ごとに濃淡はあれ、福祉国家的な要素をもつ社会を形成してきた。以下では、各国に共通する理念や、日本の現状を概観することを通じて、上記のベーシック・インカムの特徴や利点を検討していきたい。

## ❖福祉国家の仕組み

19世紀末から20世紀初頭にかけての「社会問題」としての貧困の発見は様々な形で新しい政策へと反映され、戦後の所得保障の枠組み自体を大きく変えた。

その新しい所得保障の仕組みは、英語圏を中心に福祉国家と呼ばれる。

この福祉国家の理念は、おおよそ以下のようなものである。

完全雇用の達成（個人にとっては、仕事は探せばある、仕事に就けば食べられる）を前提とした上で、

一時的なリスクには、事前に個々人が保険料を拠出する社会保障が対応し、それでも無理な場合は例外的に、

セーフティーネットとして生活保護など、無拠出だが受給にあたって所得などについての審査を受けなくてはならない公的扶助と呼ばれる給付を行う。

具体的な制度としての相違はあるものの、大枠としての理念は共通しているといっていよう（図表1、7ページ）。

このような福祉国家の仕組みは社会保障が社会保険を中心に組み立てられ、そのあと補足的に生活保護など公的扶助が適用されるという二段階の仕組みとなっている。

ここではまず、日本の現実はどのようになっているかを概観してみる。

まず前記の完全雇用は達成されていない。社会に失業者が増えれば、生活保護の受給者は増大せざるを得ない。ところが、こうした事態は制度の想定外のため、一方で世論の反発を招き、他方で受給に伴う差別や恥辱感（スティグマ）が増大しがちである。

の社会保険は年金、医療、失業、労働災害などを対象に制度化されている。「消えた年金」問題や現代の失業率の高さからもわかるように社会保障の信頼性に疑問は多い。

の生活保護はどうだろうか。セーフティーネットとしての生活保護の状況を見ていこう。

生活保護を受給できるはずの世帯のうち、実際に受給している世帯の割合を示す数値に捕捉率というものがある。日本はこの推計が諸外国に比べて20%前後と極端に低い（図表2、7ページ）。

また、ひとり親世帯の貧困率は OECD 諸国中もっとも高い部類に属する。そして通常、税と社会保険を通じた再分配によって貧困率は減少する。子どもの貧困率を見た場合でもほとんどの国がそうなるが、日本の場合には逆に、再分配後の方が貧困率が高くなっているという衝撃的なデータもある。

## 論点

さて、以上のような福祉国家の仕組みへの疑義は前回のフリードマンの提案する負の所得税にも繋がる。よって、前回の負の所得税の特徴と資料1のベーシック・インカムの特徴を踏まえた上で、現行の福祉国家の仕組みの枠内で追及するよりも、ベーシック・インカムと負の所得税のどちらを導入すべきか？

### ❖参加所得

ベーシックインカムは、資力調査を行わずに無条件で全員に給付するため、支援を必要としている人達にもれなく支給することができる。

つまり、捕捉率100%を実現できるのである。資料3にもあるように現在の日本の捕捉率が20%前後であるため、大きな成果を期待できる。

しかし、給付が誰にでもされるため、働く気のない怠け者にも与えられてしまう。働きもせず遊んでばかりしている人にお金が支給されるのは、いかにも不合理に思える。いわゆる「働かざるもの、食うべからず」ということだ。

そこで、注目されるのが「参加所得」である。参加所得とは、社会への何らかの貢献や働きたくても働けない状態を条件に支援する制度である。これは、より多くの人々が社会参加していくのを促進することや、貧困の格差の縮小を目的としている。

実際の社会貢献・就労困難の形として、

- ・被雇用者ないし自営での労働
  - ・疾病や怪我による労働不能
  - ・障害による労働不能
  - ・失業
  - ・教育や職業訓練への参加
  - ・子ども、高齢者、障害者などの被扶養者のケア
  - ・ボランティア活動
- などが例として挙げられる。

ただし、社会貢献・就労困難などの基準を機械的に決めることはできないため、どうしても判断者の主観によって決定されてしまう。

さらに、審査の段階で給付漏れが発生するおそれがある。前述の通り、日本の捕捉率は20%ほどしかないため、支援が必要な人が5人いたとしたら、たった1人だけしか給付できていない状態なのだ。こんな捕捉率で参加所得を与えるべきかどうかを判断できるかどうかは疑問である。

そこで参加所得の利点・欠点を検討する。

#### 【参加所得の利点】

- ・社会への貢献促進
- ・怠け者に対する給付など、好ましくない支援を減らせる
- ・労働せずに給付に依存する人間を減少させる
- ・給付に条件をつけることで、貧困・労働の有無に関係なく所得を与えることに対する、人々の心理的嫌悪感を緩和させる

#### 【参加所得の欠点】

- ・本来の目的である捕捉率の確保が達成できない
- ・支援すべきかは、主観による判断であり、完全な平等は困難
- ・給付漏れのおそれがある
- ・受給者が選ばれるため、「支援されている」という負い目を感じるかもしれない

### 論点

以上のように、参加所得にはベーシック・インカムに比べ利点・欠点のどちらも含んでいる。ここで問題となるのが、捕捉率とフリーライダーである。

一概には言えないが、参加所得をとれば、フリーライダーを減らしてより公平にできるが、本来の目的である捕捉率をおろかにしてしまうかもしれない。

逆に、ベーシックインカムならば、捕捉率100%を達成できるが、フリーライダーが多く発生して労働意欲を欠かせる可能性がある。

これらを踏まえた上で、ベーシック・インカムか参加所得のどちらが、より公正で効率的なのかを議論してもらいたい。

図表 1 福祉国家の仕組み

QuickTimey C?  
@LIEVÉÇEÖEÁEÁ  
Ç™Ç±ÇÄEsÉNÉ EÉÇ%a@ÇEÇZÇ%Ç...ÇÖIKóvÇ-ÇiAB

(出所) ベーシック・インカム入門 無条件給付の基本所得を考える 山森亮

図表 2 捕捉率の国際比較

QuickTimey C?  
@LIEVÉÇEÖEÁEÁ  
Ç™Ç±ÇÄEsÉNÉ EÉÇ%a@ÇEÇZÇ%Ç...ÇÖIKóvÇ-ÇiAB

## 目次

はじめに ベーシック・インカムとは

### 第1章 働かざる者、食うべからず - 福祉国家の理念と現実

- 1 - 1 ベーシック・インカムの概要
- 1 - 2 福祉国家の仕組み
- 1 - 3 日本の現実
- 1 - 4 ワークシェアとベーシック・インカム

### 第2章 家事労働に賃金を！ - 女たちのベーシック・インカム

- 2 - 1 アメリカの福祉権運動
- 2 - 2 イタリアの「女たちの闘い」とアウトノミア運動
- 2 - 3 イギリスの要求者組合運動

### 第3章 生きていることは労働だ - 現代思想のなかのベーシック・インカム

- 3 - 1 ダラ＝コスタのユニークな解釈
- 3 - 2 アントニオ・ネグリの論理
- 3 - 3 青い芝の会 - 日本の障害者運動

間奏 「全ての人に本当の自由を」 - 哲学者たちのベーシック・インカム

## 第4章 土地や過去の遺産は誰のものか？ - 歴史のなかのベーシック・インカム

- 4 - 1 「野蛮なマルチチュード」の自然権
- 4 - 2 市場経済の成立とベーシック・インカム構想出現の同時性
- 4 - 3 フーリエ主義とJ・S・ミル
- 4 - 4 ギルド社会主義と社会クレジット運動
- 4 - 5 ケインズ、ミード、福祉国家

## 第5章 人は働かなくなるか？ - 経済学のなかのベーシック・インカム

- 5 - 1 ベーシック・インカムは労働インセンティブを低めるか？
- 5 - 2 技術革新と稀少な労働
- 5 - 3 誰がフリーライダーなのか？
- 5 - 4 給付型税額控除 - 現実化した部分的ベーシック・インカム？
- 5 - 5 ベーシック・インカムと税制

## 第6章 <南>・<緑>・プレカリティ - ベーシック・インカム運動の現在

- 6 - 1 ベーシック・インカム世界ネットワークと<南>
- 6 - 2 <緑>のベーシック・インカム
- 6 - 3 福祉権運動のその後とプレカリティ運動

おわりに 衣食住足りて・・・？

今回は、第1章と第5章をメインにレジメをまとめました。

## <まとめ>

### 論点

#### (負の所得税派)

- ・ 貧しい立場の人からしたら、高収入の人と同じ額支給されるのはおかしい
- ・ 負の所得税だったらもっと平等をきせる
- ・ 元々、低所得者救済が目的なのだから、支援を必要としている人に集中して給付すべき
- ・ 給料から源泉徴収して、それに負の所得税をかければいい

#### (ベーシック・インカム派)

- ・ 高所得者は、その分多く税を徴収される
- ・ 一定の給付だから、不測の事態にも柔軟に対応できる

#### (結論)

負の所得税とベーシック・インカムの制度的な差を見つけづらかった。議論としては、負の所得税の方がより平等で貧困者救済につながるのではないかと、という形でまとまった。

## 論点

### (参加所得派)

- ・ ベーシック・インカムでは怠け者がでてくる。その人を社会全体で支えるのは不合理である
- ・ 福祉制度理念に沿った制度である

### (ベーシック・インカム派)

- ・ 参加所得は申請しなければならないから、知らなければ意味がない
- ・ 参加所得より平等にできる
- ・ 貧困救済が目的なのだから、参加もれを無くすべき
- ・ 社会貢献にあたるか主観によって判断されるのは妥当でない

### (結論)

多少の怠け者がでてても、貧しいものを先に救うべきだから、給付漏れをなくすべきである。さらに、主観による判断は適当でない。結果、ベーシック・インカムの方がより公正で効率的となった。